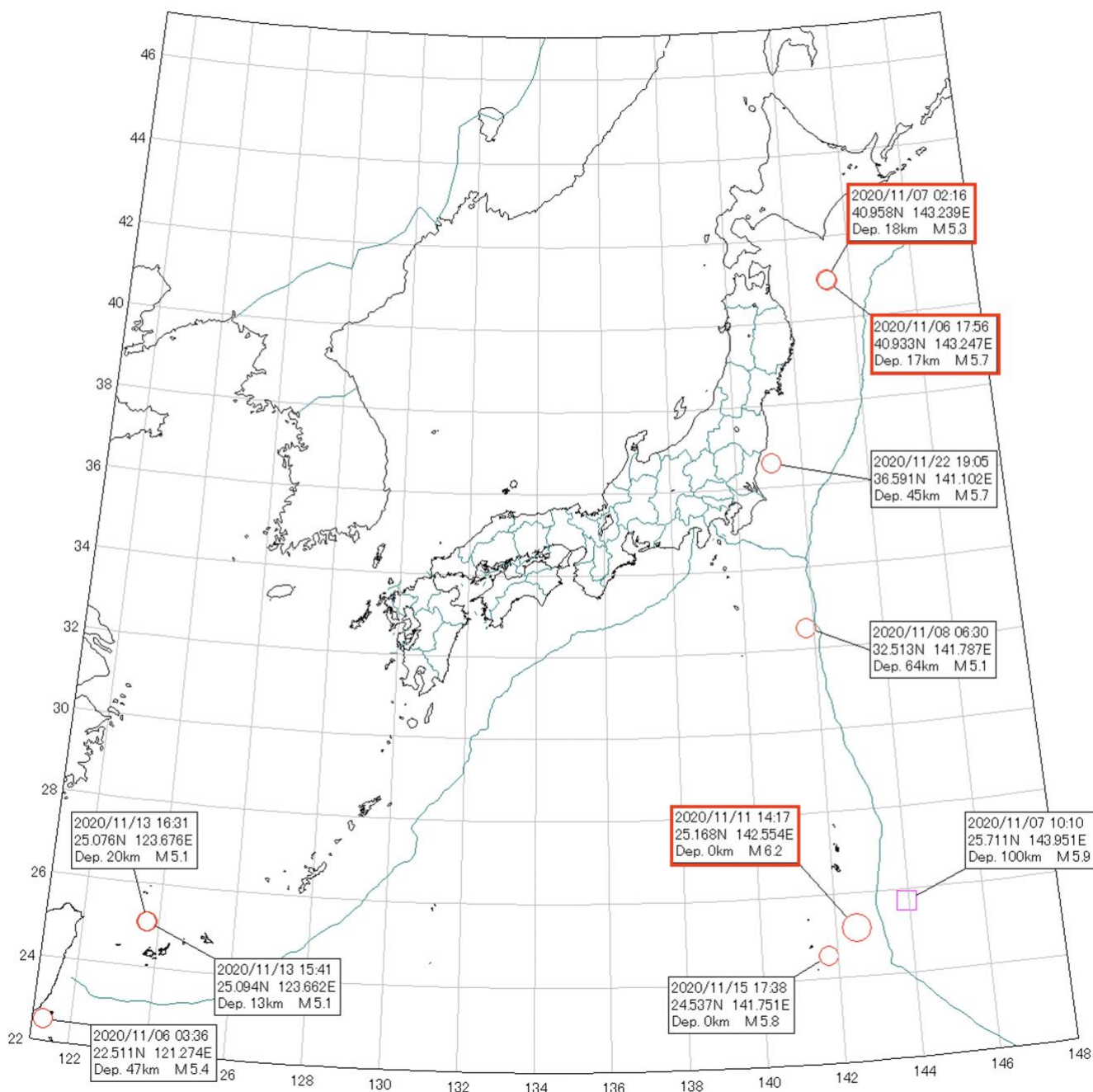


2020年11月の地震活動概観

2020年11月には、日本列島およびその周辺でマグニチュード5を超える地震は10個発生しました。一番気になった地震は11月6日、7日に青森沖(十勝沖)で続けて発生した地震です(下図の赤枠)。この地震活動については11月9日のニュースレターで前震の可能性も存在する事を速報させて頂きましたが、幸い現在のところ大きな地震の発生には至っていません。それ以外では、茨城沖で11月22日に発生した地震は東日本大震災の余震です。ちなみに11月で最大の地震は小笠原南方海域で発生したマグニチュード6.2の地震でした。

2020 11/1 0:0 — 2020 11/30 23:59



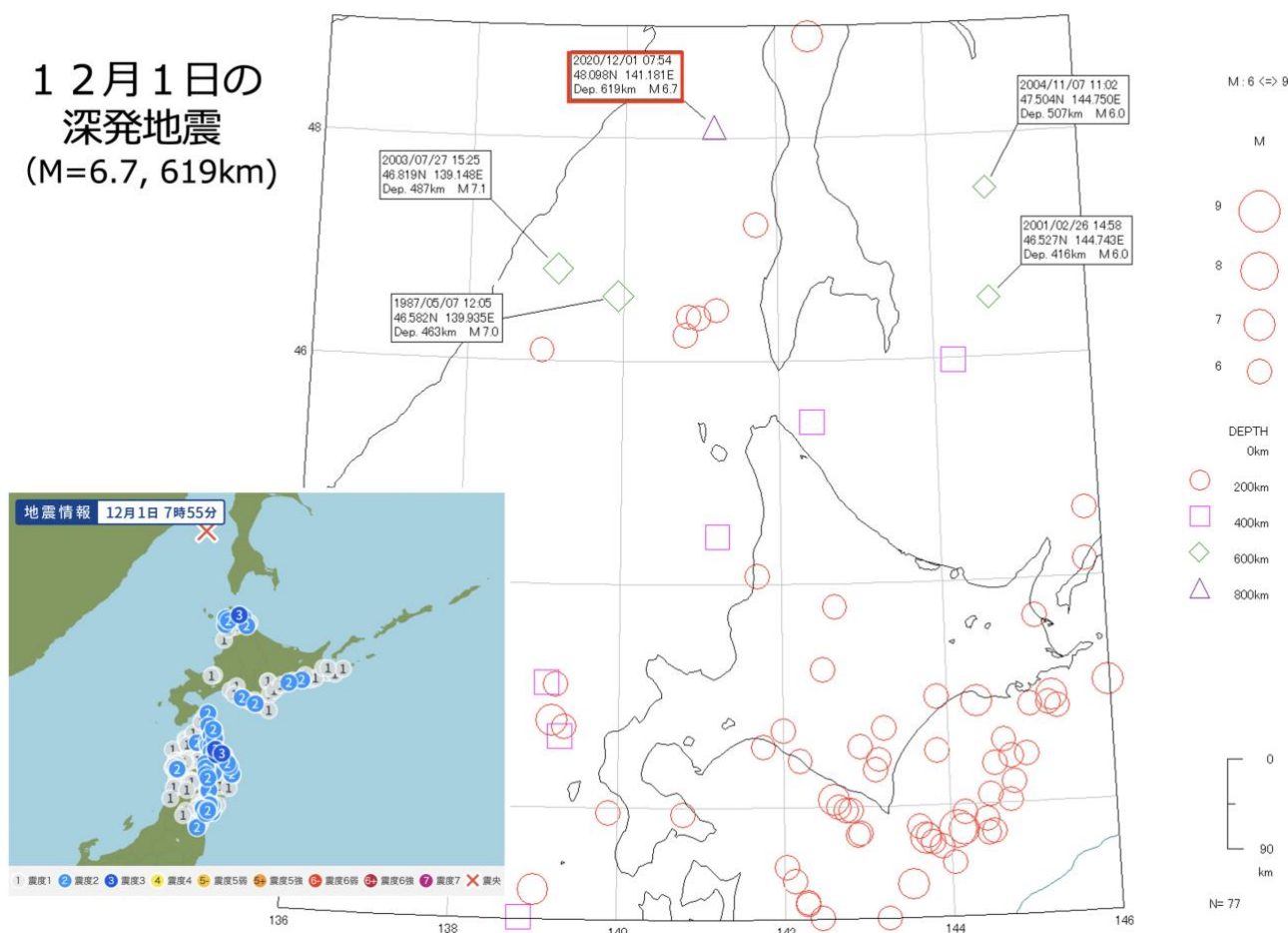
サハリン西方で極めて珍しい深発地震が発生

12月1日、サハリン西方の深さ619kmでマグニチュード6.7という地震が発生しました。この地域の過去の地震活動を調べてみると、浅い地震も含めて過去50年間で初めて観測された規模の地震でした。特に600kmを超える深さでの発生は、下の地図の中全域でも初めてのものです。極めて珍しい地震活動と言えると思います。

この地域(北海道北部からサハリンにかけての地域)では DuMA ダッシュボードで地震活動の静穏化の異常が 2018 年5月頃から観測されている事を報告させて頂いていますが、地震が極めて深い所で発生したものであるため、この静穏化に直接対応する地震ではないと考えています。

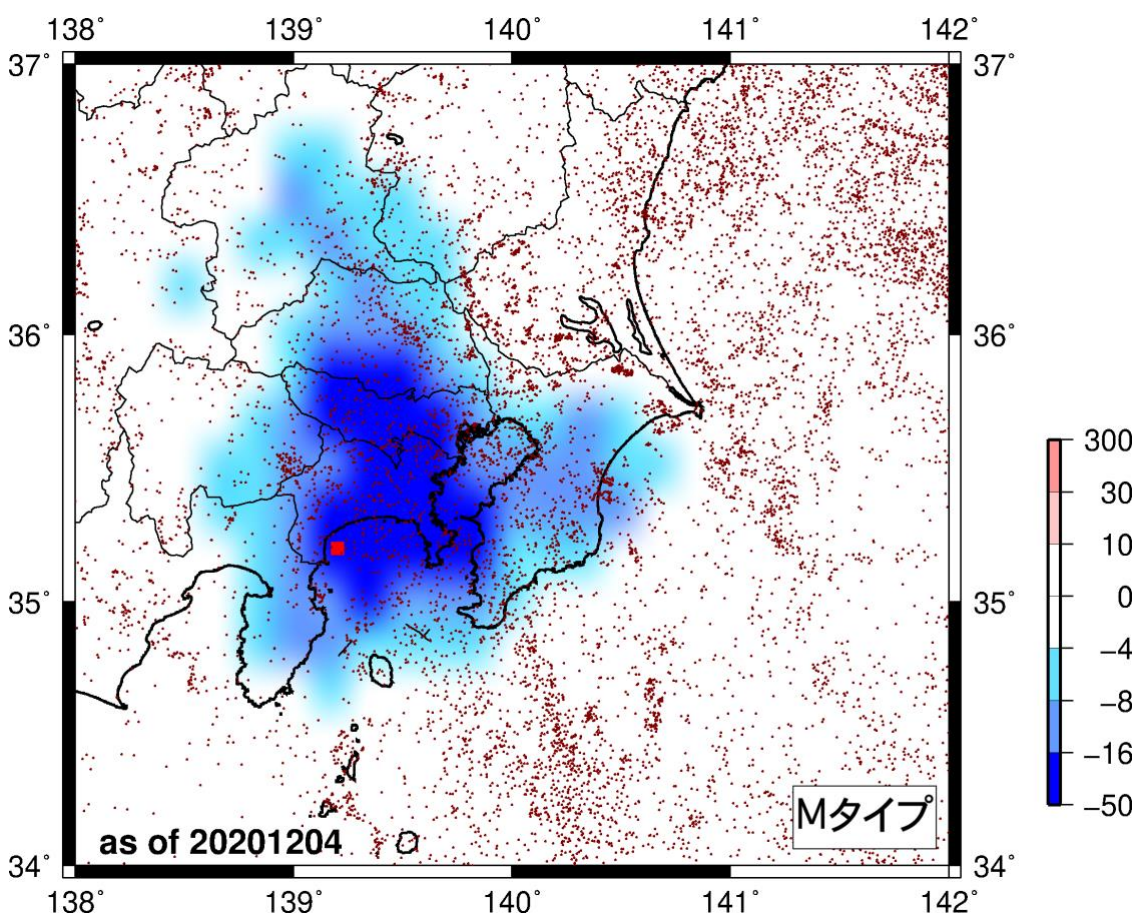
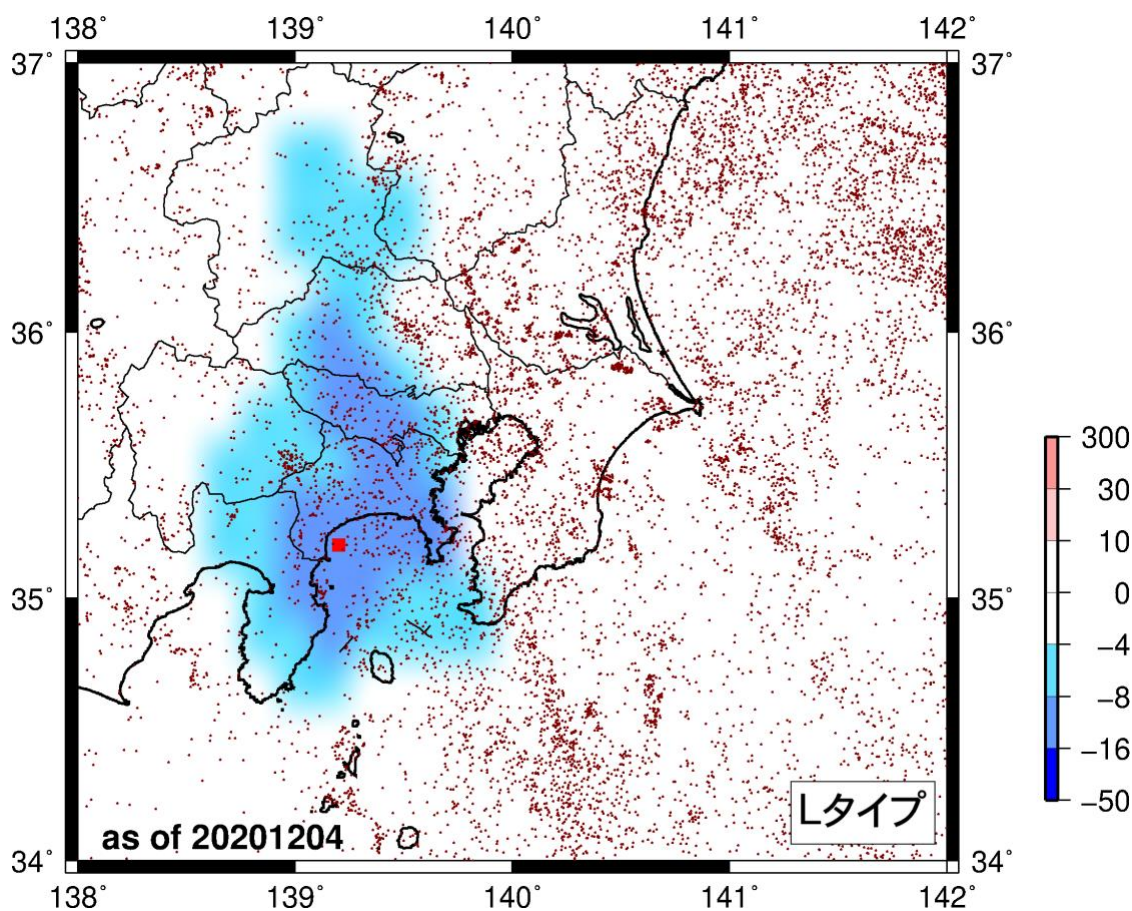
1970年以降の50年間に発生したマグニチュード 6 以上の地震

12月1日の 深発地震 (M=6.7, 619km)



首都圏の地下天気図[®]

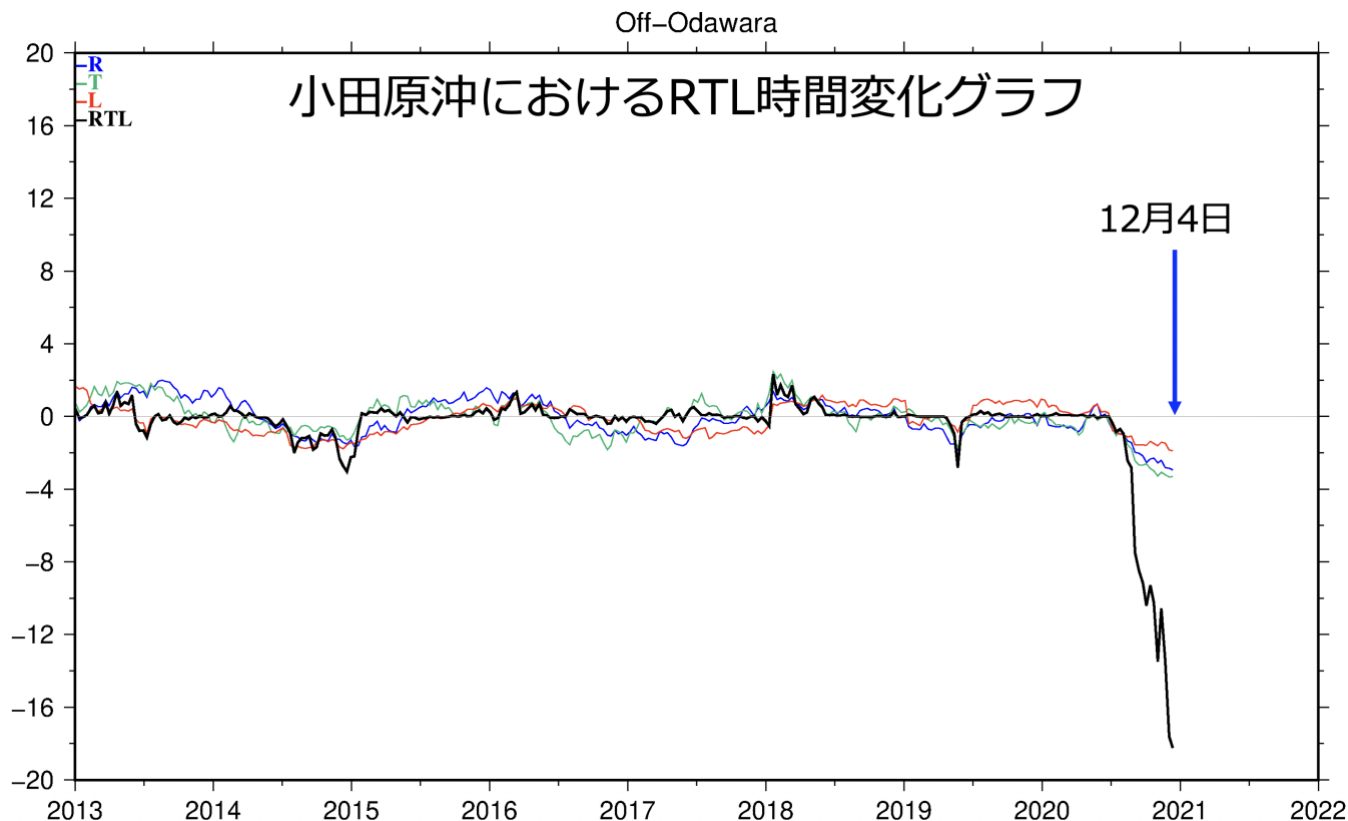
今週は10月26日のニュースレターに続き、首都圏に特化した地下天気図です。今週は12月4日時点の L タイプおよび M タイプの地下天気図を次のページに掲載します。L タイプ、M タイプとも相模湾を中心とした地域に共通の静穏化の異常が出現し、それがさらに広がっているように見えます。





Mタイプでは異常は関東地方のかなり広い範囲に広がっている事がわかります。

次にお示しする図は小田原沖(図中の■の地点)のLタイプアルゴリズムを用いた地下天気図の時間変化のグラフです。東日本大震災後の初めての静穏化異常である事もわかります。



12月4日の段階では、まだ静穏化が進行中である事がグラフから読み取れます。また実際の静穏化の中心は小田原沖というより、三浦半島を中心とした地域である事がわかりました。

来週号では DuMA ダッシュボードの更新を予定しています。